

trivia ■皮膚科のトリビア■ 165

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞きししたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

内因性アトピー性皮膚炎(AD)患者は血中Ni濃度が高い

日本臨床皮膚科医会三ブロック合同学術集会から(平成29年11月23日)

内因性ADは血清中IgEが正常でフィラゲリン遺伝子の変異が低率である。発症に金属アレルギーが関与している可能性がある。チョコレート負荷後の血中Ni濃度は内因性ADで高く、外因性AD、健常人の順であった。しかし、負荷前のNi濃度も内因性ADで3.48 ng/ml、外因性ADで2.13 ng/ml、健常人で0.40 ng/mlで、内因性ADでは健常人に比べて8.7倍の血清Ni濃度であった。

「内因性ADでは消化管のバリアに障害があって、Niの吸収が高くなっている可能性があるとのこと。血中Ni濃度は外因性ADでも健常人よりは高いようなので、興味深い。乳幼児ではどうなのだろうか」。

抗ヒスタミン薬の分類のおさらい

某抗ヒスタミン薬記念講演会から(平成29年11月26日)

非鎮静性抗ヒスタミン薬は脳内への移行性を低下させるために、H₁受容体遮断作用のある薬剤にカルボキシル基あるいはアミノ基を導入している。カルボキシル基がアレグラ[®]、アレロック[®]、タリオン[®]、ジルテック[®]、ザイザル[®]、ピラノア[®]。アミノ基がアレジオン[®]、クラリチン[®]、デザレックス[®]、

ルバフィン[®]。向精神薬との関連が深く、ドキシペミンにカルボキシル基をつけたものがアレロック[®]、ミアンセリンにアミノ基をつけたものがアレジオン[®]。

「アミノ基がついたものの方が若干抗コリン作用が強いらしい。すぐ忘れてしまうので、メモっておこう」。

初期通過効果と抗ヒスタミン点眼薬のリスク

某抗ヒスタミン薬記念講演会から(平成29年11月26日)

内服した薬剤は腸から吸収され、最初に肝臓へ移行して代謝された後に血液中へと移動する。これを初回通過効果という。肝臓を通るか通らないかで脳内への移行率も変化する。ケトチフェン点眼薬の使用後には脳内H₁受容体が40～50%占拠される。オロパタジン点眼薬では占拠されない。

「眼の結膜は脳に近いので、また初期通過効果がないために吸収された薬剤の脳内移行がおこりやすいらしい。注意しておく必要があるそうだ」。

「君が使いきった、空の軟膏チューブがみたい！」

某抗ヒスタミン薬記念講演会から(平成29年11月26日)

処置をサボる、外用する量が少なすぎるといった外用療法がうまくできていないア

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス：

<http://www.asai-hifuka.com>

トピー性皮膚炎や乾癬の患者に対して、外用療法を十分に、適切に行ってもらうための殺し文句。次回の診察までに使い切った空のチューブを持ってくるように指導する。患者の心理としては、もったいなくて中身を捨てることまではしないため、きっちり塗ってくるようになる。

「さすがエキスパート、と感心した。個人的にはこういった情熱的なムンテラはしたことがないが、機会があれば試しにやってみようかと思った」。

という特徴がある。

「最近聞くことが多くなった。少し前からIBPってなんだろうと思っていたら、そういうことだった。開業医にとっては、ちょっとつかみがたい領域である」。

長島型掌蹠角化症にはベピオ[®]ゲルが有用

第13回大阪スキンケア研究会から(平成29年11月30日)

長島型掌蹠角化症は常染色体劣性遺伝形式をとる遺伝性疾患で、蛋白分解酵素を阻害する作用のあるSERPINB7蛋白の変異で生じる。掌蹠は発汗が多く、角質の肥厚もあるためにおいが強いことが主訴になることがある。においに対する治療としてはベピオ[®]ゲルの外用が有効である。

「ナジフロキサシンなどの他の抗菌外用薬よりも効果があるらしい。これは是非試してみよう。pitted keratolysisにもいいかもしれない」。

乾癬性関節炎に関連した略語の整理

PsA meeting in Kanagawaから(平成29年11月28日)

PsA=psoriatic arthritis(乾癬性関節炎)：皮膚科医がこれまで用いていた関節症性乾癬という病名は死語になった。

SpA=spondyloarthritis(脊椎関節炎)：乾癬性関節炎を含む、体軸関節、末梢の関節に炎症をきたす疾患の総称で、HLA-B27との関連が深い。

AS=ankylosing spondylitis(強直性脊椎炎)：bamboo spineが有名。概念は古く、1964年改訂New York基準がいまでも健在。

IBP=inflammatory back pain(炎症性背部痛)：SpAの特徴で、ASではほぼ100%、PsAでは40%～78%の患者でみられる。40歳以下、運動で軽快し安静や同じ姿勢で悪化、明け方に強い、NSAIDsの有効性が高い、

